



千葉大学クリニカルアナトミーラボ（CAL）の取り組みが  
11月27日（月）新聞各紙に取り上げられました。

千葉大学医学研究院に設置されているクリニカルアナトミーラボ（CAL）の取り組みが、平成29年11月27日（月）に千葉日報、京都新聞、信濃毎日新聞、茨城新聞、山陰中央新報、岩手日報等で取り上げられました。

・記事の内容（要約）

CALは、医師が献体された遺体を使って手術技術の向上を目指す「サージカルトレーニング」を実施する施設である。診療科ごとに分かれてのプログラムを年間30～40件実施、昨年度は、全国から現職の医師ら426人が参加した。

参加者からは、「教科書だけでは分からない部分を実際に確認できた。」「また参加したい」といった感想が寄せられている。

CAL設立の中心となった鈴木崇根助教は、「医師として働き始めてから、解剖の大切さを実感し、もっと人体から学びたいと思う人は多い。サージカルトレーニングでは五感で学べるし、手術は経験を積むほどうまくなる。医療技術を向上させることで、社会に貢献でき、患者さんも喜んでくれる。」と意義を強調している。

千葉大学に献体を行うため、約2千人の会員を有する「千葉白菊会」がCALを支えている。大沢国昭会長（80）は、「献体は医療の発展に役立つことが目的なので、使い道が広がるのは歓迎。現役医師がスキルアップできれば、子や孫など、より身近な人の役に立てるかもしれない。」と話している。

厚生労働省は、「サージカルトレーニング」の普及に向け、新たにトレーニングを導入する大学に支援を行う方針を固めています。千葉大学CALは、国内の先駆的な取り組みとして経験と実績を重ね、我が国の医療の発展に寄与しています。



鈴木崇根  
千葉大学医学研究院助教



クリニカルアナトミーラボの設備

本件に関するお問い合わせ先  
千葉大学医学研究院環境生命医学  
鈴木 崇根（すずき たかね）  
E-mail : takane.suzuki@faculty.chiba-u.jp